

2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年11月6日

上場会社名 かどや製油株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2612 URL http://www.kadoya.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小澤 二郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員管理本部長 (氏名) 戸倉 章博 TEL 03-3492-5545
 四半期報告書提出予定日 2018年11月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第2四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	17,396	-	2,907	-	3,031	-	2,098	-
2018年3月期第2四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 2,205百万円 (-%) 2018年3月期第2四半期 一百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	228.09	-
2018年3月期第2四半期	-	-

(注) 当社は、2018年3月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2019年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率並びに2018年3月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第2四半期	34,383	25,743	74.9
2018年3月期	32,930	24,918	75.7

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 25,743百万円 2018年3月期 24,918百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	-	0.00	-	150.00	150.00
2019年3月期	-	0.00	-	-	-
2019年3月期 (予想)	-	-	-	115.00	115.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	34,500	12.7	4,200	△17.0	4,200	△18.2	2,860	△17.4	310.88

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社 （社名）一、除外 一社 （社名）一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期2Q	9,400,000株	2018年3月期	9,400,000株
② 期末自己株式数	2019年3月期2Q	200,326株	2018年3月期	200,326株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期2Q	9,199,674株	2018年3月期2Q	9,399,718株

(注) 当社は「株式給付信託（BBT）」を導入しており、期末自己株式数には、信託に残存する自社の株式（2019年3月期第2四半期 15,000株、2018年3月期第2四半期 一株）を含めております。また、期中平均株式数は当該信託が保有する株式を考慮して計算・記載しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

尚、上記予想に関する事項は添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（日付の表示方法の変更）

第1四半期より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	4
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における連結経営成績は以下のとおりであります。なお、当社は、2018年3月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同期比については記載しておりません。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、相次ぐ自然災害の影響等がありましたが、好調な企業業績等を背景に雇用・所得環境が改善した他、設備投資が増加する等、堅調に推移しました。また、世界経済は、緩やかな回復基調にありますが、米国の保護貿易政策を発端とした貿易摩擦激化や金融市場の動き等により、今後の動向は不透明な状況にあり、日本経済に与える影響も懸念されます。

食品業界におきましては、人口減少傾向により、国内市場の拡大が困難となる中で、差別化によるマーケットシェアの確保、海外市場の開拓、新たな付加価値の創出や不断の食の安全性確保等への対応が求められています。

このような状況下、当社グループは、ごま油の顧客ニーズや用途多様性に着目した製品ラインナップを揃え、拡販に注力しました。

軽量で持ちやすいPET製品においては、家庭用と業務用のいずれの販路も期待できる中容量品の純正ごま油600g製品について、積極的な拡販を行いました。

また、家庭用製品において、より強い風味が特徴である純正ごま油濃口について、手に取りやすい200gの小容量品を7月に発売しました。純正ごま油濃口200gの発売にあたっては、多くのファンに親しまれる宝塚歌劇団と提携した「宝塚歌劇ご招待キャンペーン」を実施し、幅広い消費者に対して、純正ごま油濃口の認知拡大やブランド力の向上を図りました。

また、香りやくせの少ない純白ごま油や、ごま油の香り豊かななら一油等においても、積極的な販促や広告活動を展開しています。

食品ごまにおいては、前期11月に家庭用食品ごまに強みを持つカタギ食品株式会社を子会社化したことを契機に、一部で生産体制の改善を行う等、グループ全体の生産効率の向上に取り組みました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高17,396百万円、経常利益は3,031百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,098百万円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①ごま油事業

ごま油事業におきましては、純正ごま油PET600g製品の家庭用市場における販売が拡大した他、7月に販売開始した純正ごま油濃口200gの販売も順調に推移しております。また、需要の増加に対応可能な生産体制の構築のため、5月に搾油用ごまの焙煎機を更新する設備投資を行っております。

以上の結果、売上高は12,890百万円、セグメント利益は2,324百万円となりました。

②食品ごま事業

食品ごま事業におきましては、家庭用食品ごまにおけるスーパーマーケット向けの販売増加や、業務用ねりごまにおける惣菜向けの需要増等により、全体的に好調に推移した他、カタギ食品株式会社の子会社化により販売数量の底上げがされました。また、グループ内の生産体制効率化の一環として、一部の外注委託作業の内製化等を行いました。

以上の結果、売上高は4,478百万円、セグメント利益は569百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1,452百万円増加しました。これは現金及び預金が3,168百万円減少するなどの減少要因があったものの、有形固定資産が3,237百万円、原材料及び貯蔵品が614百万円、受取手形及び売掛金が603百万円増加したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ627百万円増加しました。これは未払法人税等が226百万円、役員賞与引当金が176百万円減少するなどの減少要因があったものの、未払金が1,193百万円増加したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ825百万円増加しました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益2,098百万円の計上と配当金の支払い1,379百万円の加減算により利益剰余金が718百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年5月14日に公表いたしました業績予想から修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,108	7,939
受取手形及び売掛金	7,347	7,950
商品及び製品	1,275	1,386
仕掛品	779	692
原材料及び貯蔵品	3,434	4,049
その他	244	334
流動資産合計	24,190	22,353
固定資産		
有形固定資産	5,788	9,026
無形固定資産	173	212
投資その他の資産	2,777	2,791
固定資産合計	8,740	12,030
資産合計	32,930	34,383
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,491	2,702
未払法人税等	1,249	1,022
賞与引当金	397	258
役員賞与引当金	266	89
その他	2,384	3,320
流動負債合計	6,789	7,393
固定負債		
退職給付に係る負債	877	926
役員株式給付引当金	—	3
資産除去債務	53	54
その他	291	262
固定負債合計	1,222	1,246
負債合計	8,012	8,639
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,160	2,160
資本剰余金	3,082	3,067
利益剰余金	20,333	21,051
自己株式	△1,396	△1,380
株主資本合計	24,179	24,898
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	755	814
繰延ヘッジ損益	△16	31
その他の包括利益累計額合計	738	845
純資産合計	24,918	25,743
負債純資産合計	32,930	34,383

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
売上高	17,396
売上原価	9,279
売上総利益	8,116
販売費及び一般管理費	5,208
営業利益	2,907
営業外収益	
受取利息	0
受取配当金	15
為替差益	134
雑収入	9
営業外収益合計	159
営業外費用	
支払手数料	12
補助金返還損	8
災害による損失	13
雑損失	0
営業外費用合計	35
経常利益	3,031
特別利益	
固定資産売却益	60
特別利益合計	60
特別損失	
固定資産除売却損	10
特別損失合計	10
税金等調整前四半期純利益	3,081
法人税、住民税及び事業税	964
法人税等調整額	19
法人税等合計	983
四半期純利益	2,098
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,098

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	2,098
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	58
繰延ヘッジ損益	48
その他の包括利益合計	107
四半期包括利益	2,205
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	2,205
非支配株主に係る四半期包括利益	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

当第2四半期連結累計期間
(自 2018年4月1日
至 2018年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	3,081
減価償却費	367
賞与引当金の増減額(△は減少)	△139
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△176
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	48
役員株式給付引当金の増減額(△は減少)	3
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0
受取利息及び受取配当金	△15
支払手数料	12
為替差損益(△は益)	△12
有形固定資産除売却損益(△は益)	△49
売上債権の増減額(△は増加)	△603
たな卸資産の増減額(△は増加)	△638
その他の資産の増減額(△は増加)	△102
仕入債務の増減額(△は減少)	207
その他の負債の増減額(△は減少)	△145
小計	1,836
利息及び配当金の受取額	75
支払手数料の支払額	△9
法人税等の支払額	△1,179
営業活動によるキャッシュ・フロー	722
投資活動によるキャッシュ・フロー	
投資有価証券の取得による支出	△3
投資有価証券の売却による収入	2
有形固定資産の取得による支出	△2,478
無形固定資産の取得による支出	△126
有形固定資産の除却による支出	△6
有形固定資産の売却による収入	123
貸付金の回収による収入	1
保険積立金の積立による支出	△15
その他	△8
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,511
財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の返済による支出	△1
配当金の支払額	△1,378
自己株式の取得による支出	△88
自己株式の売却による収入	88
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,379
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,168
現金及び現金同等物の期首残高	11,007
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,838

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合 計
	ごま油	食品ごま	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,890	4,478	17,369	26	17,396
計	12,890	4,478	17,369	26	17,396
セグメント利益	2,324	569	2,894	13	2,907

(注) 「その他」の区分には、「仕入商品販売」を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,894
「その他」の区分の利益	13
四半期連結損益計算書の営業利益	2,907

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。